

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース  
(保健体育)／綿引 勝美

### ■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

#### 1. 目標・計画

○ドイツ公教育システムにおけるスポーツエリート教育の現状と課題；国際的に活躍できるスポーツ競技者の育成に、公教育がどのように対応するべきか、という問題が我が国でも論議されるようになってきている。こうした現状を踏まえて、公教育の一貫としてのドイツでの競技者教育の制度とその内容を分析し、教訓を得たい。  
○ドイツにおけるトップアスリートを対象とした学士スポーツ指導者養成についての研究：ケルン体育大学に付属しているトレーナーアカデミーは、トップアスリートのセカンドキャリアを育成するための制度として位置づけられ、学士スポーツ指導者の養成を続けている。その高度なスポーツ指導者養成制度のカリキュラム、指導者としてもつべき実践的な力量についての詳細な分析を行う。

#### 2. 点検・評価

平成22年度からの科研費の最終年度出会ったため、25年度にむけての申請は見送った。新たな取組として、音楽コースの頃安教授が研究代表者となって申請した「教員を目指す学生の「声」を育てる授業の開発」というテーマの基盤C(一般)に国語科コースの余郷教授とともに、共同研究者として、参加し、25年度の交付が内定した。ドイツにおけるエリートスポーツ選手のトレーニング学研究のなかで得られた、身体運動能力開発の考え方を授業開発に活かす、という立場から研究に関わる。また、吉備国際大学上田准教授の「体づくり運動を支援する児童期の簡易コーディネーション能力診断テストの開発」というテーマの若手研究(B)に研究連携者として関わり、25年度交付が内定した。ドイツザクセン州のスポーツ学校やスポーツ指定校で展開されているコーディネーション能力のトレーニング法の開発経緯の研究という立場から関わることとなった。

##### I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

#### 1. 目標・計画

これまでのコーディネーショントレーナー養成のための仕組みづくりをさらに進め、ドイツ語圏のトレーニング科学研究の文献資料の購読会を定例化し(主に東京)、広報に務める。

#### 2. 点検・評価

東京帝京平成大学での「Trainingslehre - Trainingswissenschaft」の購読会、勉強会を毎月(4-7)行い、更に、11月には、ドイツから講師をお招きした、「第三回トレーニング科学集中講座」に企画者のひとりとして参加し、広報に務めた。

## II. 分野別

### II-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

○スポーツ活動の社会的な広がりのなかで、スポーツに関連した事業や産業に関心をもたせるような指導を行う。とりわけ、地域総合型スポーツクラブとのネットワークを構築する。

#### 2. 点検・評価

ドイツを中心に、スポーツトレーニングでのさまざまなジュニア育成プログラムの情報を収集した。徳島県バドミントン協会との連絡を密にし、そこから得られた情報を、スポーツ人間学などの授業で学生に提示している。とりわけ、神経系のトレーニングであるコーディネーショントレーニングについては、実技や演習の授業で積極的に取り上げて、学生の理解をふくめる努力を続けている。またドイツのトレーニング科学の集中講座に企画者として参画し、本大学の院生もライプチヒでの講座に参加し、ザクセン州での体づくりや動きづくりの取り組みについての理解を深める機会を提供することができた。

### II-2. 研究

#### 1. 目標・計画

○ドイツにおける「Bewegung-turn」という思想的な潮流をひきつづき精査する。  
○ドイツの選手選抜制度・トレーニング科学関連資料を収集し解析する。  
○スポーツトレーニングに関連するNPOやベンチャー企業との共同研究を推進し、指導者の再教育システムをサポートする。

#### 2. 点検・評価

ドイツ語圏で展開されている、身体論や運動論の見直しの潮流にアクセスし、多くの研究資料を収集することができた。更に、ジュニア期におけるトレーニング科学研究の成果であるジュニアトレーニングハンドブックの抄訳を行った。ライプチヒ大学のスポーツ科学部との交流をすすめているライプチヒスポーツ科学交流協会の幹事として、ライプチヒ大学公認のコーディネーショントレーナー養成制度を具体化することができた。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- 学部入試委員として、授業改善に積極的に取り組む
- 文部科学省等のプロジェクト予算獲得にむけた取組みを継続する。

### 2. 点検・評価

入試委員として活動している。  
大学機関別認証評価WKで活動している。  
大学院ディプロマ・ポリシー作成に専門委員として関わった。  
国立スポーツ科学センターの研究者とのネットワークづくりを行っただけでなく、ドイツジュニアトレーニングハンドブックの抄訳作成し、提出した。引き続き共同研究プロジェクト関係の予算獲得にむけた取組みを継続している。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

- ライプチヒスポーツ科学交流協会を通じた、トレーニング科学の国際的な交流を促進し、我が国のスポーツ指導者養成のサポートを行う。
- 地域総合型スポーツクラブとのネットワークを構築する。
- フィールド研究などをおして、附属学校等での授業サポートを継続する。

### 2. 点検・評価

ライプチヒ大学のスポーツ科学部との交流をすすめているライプチヒスポーツ科学交流協会の幹事として、ライプチヒ大学公認のコアディネーショントレーナー養成制度を具体化することができた。  
徳島県バドミントン協会での育成プログラムの運営、運動能力の測定、情報提示等の事業に関わった。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)